ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Associationの活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。

この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

2013年11月5日、UHB大学主催で、「熊とは、そして、札幌の市街地に熊が出て来る本当の理由」と言う題で、門崎允昭が約80分間、道新ホールで500名程の聴衆に講演をした際の全文の、今回はその5回目として、会報23号に続き掲載致します。お読み下されば幸甚です。

[10] 次に、北海道の熊の実態についてお話しします

北海道は面積が日本全土の20%を占め、九州の約2倍あります。今から150年前(これは明治になる5年前ですが)、当時は、人が住む集落地以外はほぼ全域が森林と灌木が生える湿地帯で、その全域が熊の生息地(熊が長期に続けて使っている場所)ないし出没地(熊が時々使う場所の事)で、生息数は4,500頭ないし5,500であったと、私はみています。そして、150年後の現在はどうかと言いますと、現在全道の土地利用区分を見ますと、全道面積の71.5%が森林地帯で、宅地農牧地など、人の日常生活地は28.5%です。現在の熊の生息域は、全道面積の約50%で、森林地帯と森林に囲まれた山岳地帯が生息地です。生息数は私の推算では、1900頭~2300頭で、この内毎年年間300~600頭が殺されており、この数は40,50年前と変わりません。現状の熊の殺し方は、檻罠に熊の好物の色々な餌を入れ、熊をおびき入れ、被害を予防すると言う理由で、熊が姿を見せたと言うだけで罪のない多くの熊を銃殺しているのが実態です。

[11] 「北海道の代表的な自然を、世界の民の子々孫々の為に残すとして、世界自然遺産地に指定した知床」でも2011年度迄毎年20数頭、そして2012年度は67頭もの熊が観光客に近づ

くとか、人家から見える所に出て来て危険であるとして、殺されました。ところが、朝日新聞 2013 年の 9/2 付に、「知床のヒグマ出没激減」と言う記事がのり、-----「今年の熊の目撃件数、昨年の 3 分の 1。熊を管理している知床財団では「あまりにも極端」でその原因が分からないと首をかしげている」と言う内容。前年、例年の 3 倍の 67 頭もの熊を殺しておいて、なんと空々しい事かと私は言いたい。皆さんはこの事実を、どうお思いになりますか。

[12] また知床では熊の調査と称し、重さ 500gr もの発信器を熊の首につけ、荷札ほどの大きさのプラスチック札を熊の両耳に穴をあけてつけて、調査しており、動物虐待も甚だしいと言いたい。 そう言うことをしている北大関係者に、己の首に同じ物を付け、何日も過ごしてみろと言いたい。これは欧米の猿まねで、日本では不要な調査です。その理由は、35 年も前から同じ調査を北大の連中は続けているが、この調査から、雄が雌より行動範囲が広いとか、どこから何処まで何km移動していたとか、得意げに新聞に公表しているが、これによって、人身事故や経済的被害を減らす手はずが見い出せたとか、駆除する熊の数を減らす手立てを見出したとかいうような、人と熊の両方に寄与するような話は全くない。ただ熊を苦しめ、連中が自己満足の為に行っている調査であるという事実、皆さんに知って戴きたい。首輪や耳札を付けられている熊の目を見ると、その目は、餌で人間に騙され、うかつに罠に入り、麻酔かけられ、年齢を調べるために歯を一本抜かれ、採血され、首に発信器を着けられた己の不徳を悔やみ、悲しんでいるまなざしが伝わって来ます。

[13]北海道の熊の生態についてお話しします

熊は 1 年を 1 区とした生活型の獣で、その 1 年は穴に籠もる越冬期と山野を跋渉して過ごす活動期とからなっています。熊の越冬穴は山の斜面に横穴状に熊自ら掘って造ったもので、自然に出来た穴は一時的に使うことはあっても、一冬続けて使うことはありません。穴に入る時期は、早くて 11 月 20 日過ぎ、遅くても冬至頃にはすべての熊が穴に入り、冬ごもりを始めます。穴には育子中の母子以外、同じ穴で過ごすことはありません。冬ごもり中は、吹き込む雪や敷き藁を舐り喰う程度で絶食状態で過ごします。それでも、身体に十分な養分を蓄えていますから、ひもじくは無く、要するに、熊にとっての冬ごもりは、悠々自適の休息期なんです。そして、翌年の 3 月 20 日前後に早い熊は穴から出て、山野を跋渉し始めます。妊娠した雌は冬ごもり中の、1 月から 2 月中旬にかけて子を 1 頭から 3 頭産みます。新生子は、鼻先から尾の付け根までの長さはおよそ 25cm から 35cm、体重は 300g から 600g です。新生子を連れた母熊は 4 月下旬から 5 月の第 1 週に越冬していた穴から子と共に出てきます。子が 1 頭の場合は子が満 1 歳を過ぎた 5 月～8 月に自立させます。また、子が 2～3 頭の場合は、子 1 頭当たりの授乳量が減るために子が満 2 歳過ぎるまで連れ歩き養育し、その年の 5 月～8 月の間に自立させます。ただし、野生動物研究者である稗田一俊さんによると、知床では、高栄養の鮭鱒を豊富に食べるために、子が 2 頭の場合でも、子が満 1 歳過ぎた 5 月～8 月に自立させと言うことです。冬籠もり穴では、熊は糞尿をしないと、北大の獣医学部の坪田教授は幾度も新聞などに書いていますが、そんなことはありません。第一、新生子を養育中の母熊は、子熊の成長を促すために、子の糞尿を舐り取り、それを穴の端に排泄します。彼は複数の越冬穴を見ていないからそう言う事を言う訳です。 (了)